



## 自覚症状をうまく伝えるコツはある？

**A** 早期診断や早期治療は十分な情報があつてこそ！ドクターにとっても問診時の情報は重要です。病名を判断できるように病歴と自覚症状を伝えましょう。

- ・ 症状の場所や性質を伝える  
症状がある場所（一か所 / 複数箇所）、そしてその場所から広がってきているのか？  
変わってくるのか？
- ・ 症状が起こった時やきっかけを伝える  
症状はいつから？どのような時に？
- ・ 症状の時系列に沿って具体的に伝える  
その症状がいつどのように始まったのか。  
どのように変化してきたかを話す  
どんな時に悪化したり和らいだりする？



## 治療法…担当医以外の意見を聞いてみたい

**A** セカンドオピニオンの仕組みを活用しましょう  
この仕組みは、納得のいく治療法を選択することができるように、治療の進行状況、次の段階の治療選択などについて、現在診療を受けている担当医とは別に、違う医療機関の医師が様々な検査データなどの情報を見てもらい、「第2の意見」を求めることです。セカンドオピニオン外来では診察・検査・治療は行われません。また、転院して別の医師のもとで治療をすることではありません。

セカンドオピニオンを受けた結果を現在の担当医に伝え、これからの治療法について再度相談しましょう。

※セカンドオピニオンは基本的に公的医療保険が適用されない自費診療。病院によって請求料金が異なります。



## まとめ

日ごろから医療機関との良好な関係づくりは重要です。自分の病状を長期的に見てくれる「かかりつけ医」を持ち、医療機関とのコミュニケーションを大切にしましょう。



## 入院をしている病院の医師とうまくコミュニケーションが取れない

**A** それまで築いてきた信頼関係の溝が深まる前にまずは本音を伝えたいものですが、「気後れする」こともあるでしょう。その場合は下記のことを試してみましょう。

- ・ 看護師や薬剤師など、ほかの医療者の力を借りる  
担当医とうまくコミュニケーションがとれていないことを率直に伝え、自分の思いを話してみましょう。
- ・ 病院内に設置されている「相談支援センター」や「医療相談室」で相談する  
相談員は気持ちに寄り添い、必要があれば助言など何らかの調整をしてくれるでしょう。



## 入院や手術が必要。 でも、保証人がいない！

病院での入院や手術には基本的に保証人が求められますが、保証人がいない事だけを理由に、手術や入院を拒否されることはありません。医師法第19条1項で、「応召義務」が定められているからです。

<保証を頼める人がいない時>

- ①友人や知人に依頼
- ②保証人が不要になる方法を病院に相談
- ③身元保証の代行サービス（民間）を利用

イラスト (P4, 5) / 岡 万記子